

心臓CT・ヨード造影検査に関する説明

今回の検査ではヨード造影剤という薬を使用します。下記の内容を十分に理解され納得されたうえ同意書に御署名をお願いします。勿論、造影剤使用の拒否や同意後の撤回も可能です。

1.ヨード造影剤について

診断や病状評価のため、造影剤を血管内へ注入し血管や血流が強調された画像を作成します。(MRIやPET検査、胃透視検査で使用する薬剤とは異なります。)

2.ヨード造影剤の危険性

基本的に安全性の高い薬剤ですが、下記のような危険性(副作用)もあります。前回の検査時に問題なくても今回の検査で出現することもあり、副作用の発生は完全には予測出来ません。医師が副作用の危険が高いと判断した場合、造影剤検査は施行しません。

(即時型の反応)

- ・吐き気、動悸、頭痛、蕁麻疹、手足のむくみなど(約100人に5人:5%)
- ・呼吸困難や意識障害、血圧低下などの重篤な反応(約2500人に1人:0.04%)
- ・死亡例は約50万人に1人と極めて稀です。
- * 造影剤による反応が出現した場合、迅速に処置を行えるような体制を整えております。

(遅発性の反応)

造影剤投与開始より1時間～数日後に発疹、発赤、悪心、嘔吐、頭痛等が出ることもあり、きわめて稀ですが、血圧低下や呼吸困難などの症状も報告されています。帰宅後、体調不良が出現した場合はお近くの医療機関を受診し、造影剤を使った検査をしている旨を説明してください。その後当院に詳細をご連絡ください。

造影CT検査時、血管外に造影剤が一部漏れ、腫れや痛みを生じることがあります。通常は自然に吸収されますが、症状により処置が必要となる場合もあります。

3.ヨード造影剤の副作用発生リスクおよび禁忌

過去に造影剤アレルギーの既往や気管支喘息があった場合、副作用の頻度が5～10倍になると言われています。当院では過去に発生した造影剤アレルギーの症状が中等度以上の場合や症状がコントロールされていない気管支喘息の方には造影剤を禁忌(使用しない)としています。また、甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫、マクログロブリン血症、テタニー、腎機能低下、重篤な心疾患などの方は症状が悪化するリスクがあり、造影検査ができない場合があります。